



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



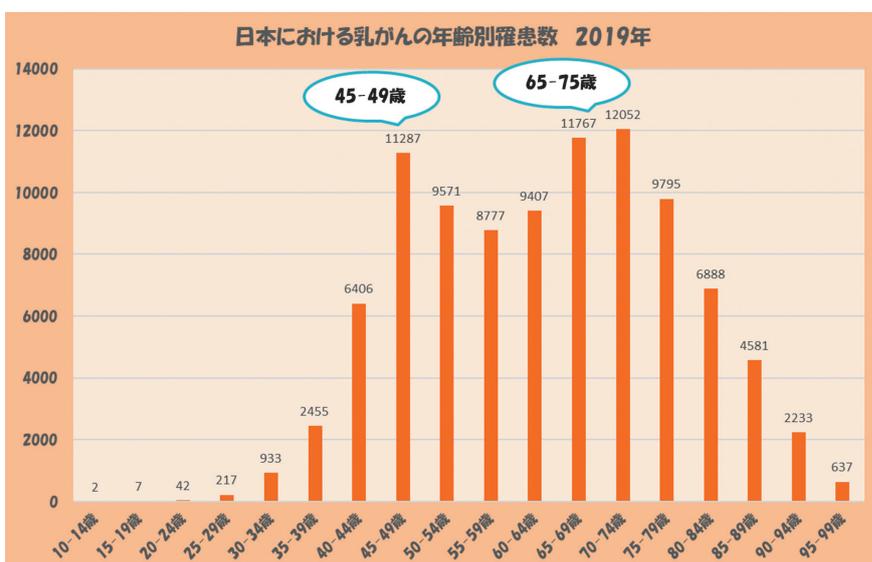
乳がんから あなた自身をまもるために

日本人の乳がんにかかりやすい年代は40歳代と60歳代

乳がんは、欧米では60歳代に見られることが多い病気ですが、日本では30歳代から増加し始め、40歳代後半と60歳代後半に2つのピークを迎えます。

閉経前の30歳代、40歳代の早期からかかる人がふえてくるのが日本の乳がんの大きな特徴とされています。

このため40歳以上の方は定期的にマンモグラフィー検診を受けることが大切です。



国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)全国がん罹患データ(2019)より作成

ブレスト・アウェアネスを実践しましょう

ブレスト・アウェアネスとは「自分の乳房を日ごろから意識して生活すること」です。乳がんの早期発見・治療につなげるために、とても大切な生活習慣で、「自己検診」のような検診行為とは異なり、気軽に継続しやすいです。以下の4つを実践してみましょう。

①自分の乳房の状態を知る

③変化に気が付いたらすぐに医師に相談する

②乳房の変化に気を付ける

④40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

入浴時やシャワーの時、着替えの時に自分の乳房を見て、さわって、感じてみましょう。自分の乳房への関心や意識が高まり、変化に気が付きやすくなります。もし、右記のような変化があれば、放置せずにすみやかに専門医を受診しましょう。

(乳腺外科 部長 増野 浩二郎)

注意すべき変化

- 乳房にしこりがある
- 乳房にひきつれ、くぼみができた
- 乳頭から分泌物がでる
- 乳頭にただれがあったり、陥没や変形があったりする
- わきの下にぐりぐりがある



臨床検査科
病理部

病理標本の 遺伝子の品質保持

2026年 2月 第211号

病理検査室では体の一部の組織を調べて、病気の原因や腫瘍の種類を調べています。その組織には遺伝子が含まれており、現在ではその遺伝子情報は治療方針の決定などの重要な役割を担うようになってきました。ただ、遺伝子は非常に壊れやすく、その取扱いによって、重要な検査ができなくなりますので、取り出された組織は非常に慎重に扱わなければなりません。

腫瘍などを体外に出した時にはなるべく速やかに中性ホルマリンで固定することが推奨されています。また、そのホルマリンの固定時間が72時間を超えても遺伝子がバラバラになったり、特有の化学修飾を受けて本来と異なる遺伝配列になりますので、適正な固定時間を守る必要があります。また、RNAという遺伝子は熱に弱いいため全工程60℃以内で病理標本を作製しなければなりません。

当院では手術室から病理検査室への速やかな搬送と迅速なホルマリン固定を行っています。連休を挟みますと固定時間が問題になるので、腫瘍を一部切り取って、別工程で固定し、遺伝子に好ましい標本作成を行っています。また、自動パラフィン浸透包埋装置の条件設定を工夫して、60℃以下の作業工程を確立しており、私たちは遺伝子により優しい病理検査室を目指しています。

(臨床検査科病理部 医師 草場 敬浩)



全工程60℃以下で標本処理を行えるように特別なプログラムを組んだ自動パラフィン浸透包埋装置



お正月など固定時間が長くなる場合、遺伝子検査用に腫瘍の一部を切り取って、遺伝子保存に適した別工程で標本を作製しています。



看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら